

かたを個人でやってみようと。それから小船に乗って太湖から揚子江に浮かび出て、名も姓も改めて、齊に行つては鴟夷子皮と称し、陶へ行つては朱公と称した。(新釈漢文大系本の「通釈」より引用)

二、「蒙求」「范蠡泛湖」の一文

「権力者の圏外である湖沼や海上に逃れた人の話。(中略) 范蠡は呉を滅ぼした後、保身を計つて舟を五湖に泛かべ逃れた」話を載せる。(『新釈漢文大系 蒙求』早川光三郎氏の〈題意〉より引用)

范蠡事越王勾踐、苦身戮力、與勾踐深謀二十餘年。竟滅呉、報會稽之恥。以為、大名之下、難以久居。且勾踐可與同患、難與處安。乃裝其輕寶珠玉、與其私徒屬乘舟浮海以行、終不反。適齊、變姓名、自謂鴟夷子皮。(下略)。

(新釈漢文大系『蒙求下』早川光三郎著 590頁より引用)

(口語訳)

范蠡は越王勾踐に仕え、苦勞して、力を合わせ、勾踐とともに深く謀をなすこと二十余年の久しきにわたり、ついに呉王夫差を滅ぼして会稽の恥辱をすすいだ。よつて彼は「大いなる名声をあげた後はその地位に長くおるべきでない。功成り名遂げて身を退けるのは天の道である。それに勾踐の人柄は共に憂いを同じくすることができて、安楽をともしることができない人である」と思い、そこで手軽な宝物珠玉を荷造りし、その家族召使と舟に乗り海を渡つて越を去り遂に帰らなかつた。それより齊の国に行き、姓名を変え、自分で鴟夷子皮と名乗つた。

(新釈漢文大系本の「通釈」より引用)

(井原 和世)